取扱説明書（ホンダ編）

G-SCAN

もくじ

ご使用になる前に

本取扱説明書では、ホンダ車の診断機能に関してご説明させていただきます。ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。本体の基本的な操作は、本体の取扱説明書をご覧ください。

株式会社インターサポート

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

	警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

	注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

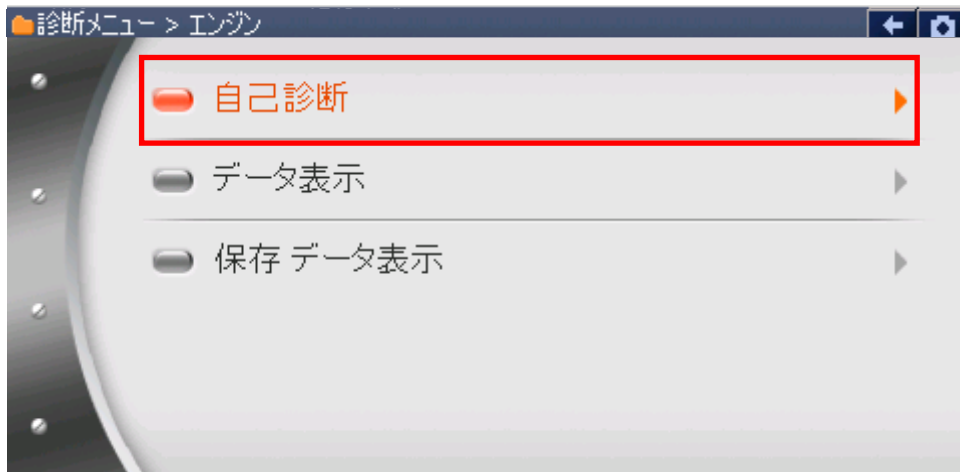
警告

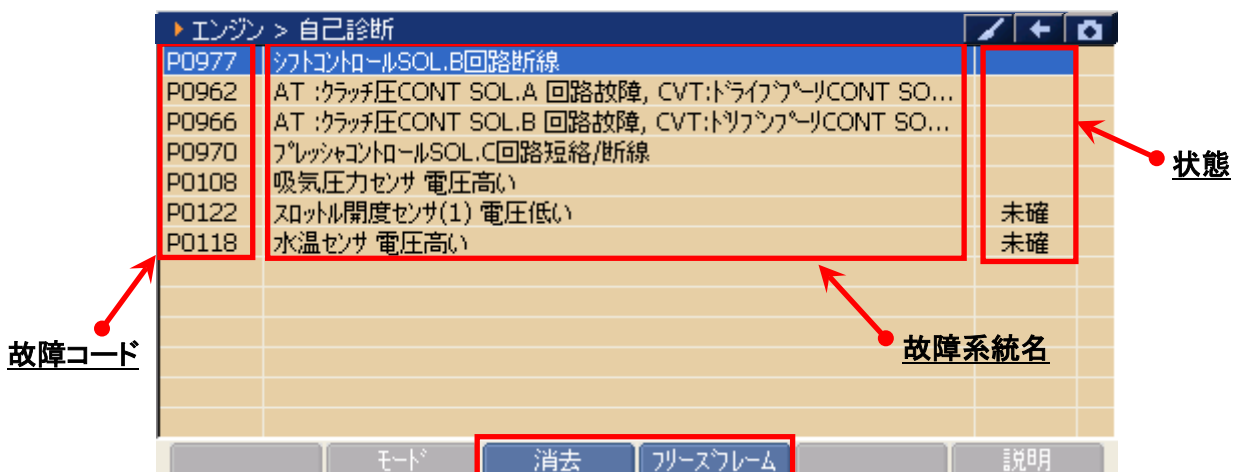
- 走行状態でご使用になる場合には、必ず運転者、操作者の2人でご使用ください。操作に気を取られて事故につながる恐れがあります。
- アクティブテストはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）および、車両停止状態（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）で実行してください。

注意

- ホンダ車または、ホンダ製造のOEM車以外に使用しないでください。

診断機能

1）診断メニューにおいて『自己診断』選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：診断メニューにて自己診断を選択〉

2）自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。

〈図：自己診断画面〉

故障コード ： ホンダ独自の故障コードNo.、又はSAEコード（例：P0135）が表示されます。

故障系統名 ： 故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、ホンダのサービスマニュアルをご参照ください。

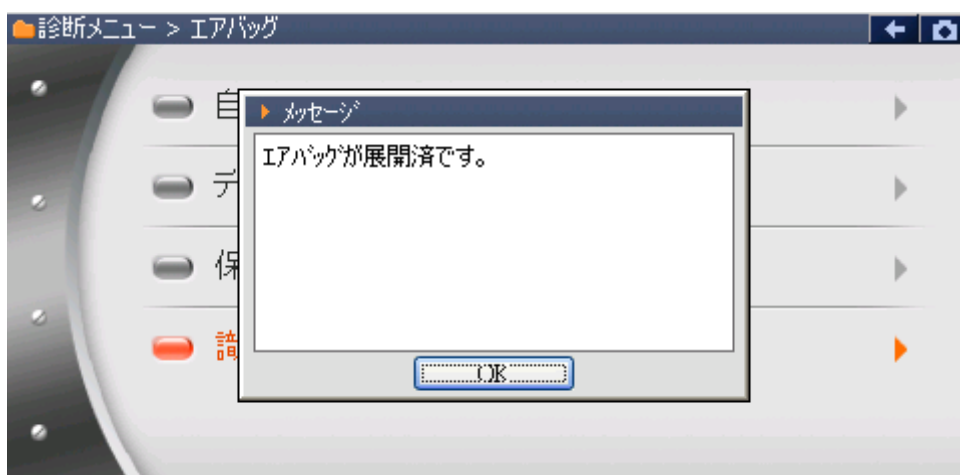
状態 ： 故障の検出状態を表示します。
「未確」 ：2トリップ連続検出法（誤診断防止のため、IG SWのOFF/ONをはさんだ2回の連続する走行で2回とも同じ故障が検出されないと故障と判断しない。）を使用した故障コードで、1回目の検出を意味します。
「過去」 ：過去に故障コードを検出したことを意味します。

消去 自己診断記憶を消去します。【詳細はP9を参照】

ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑ フリーズフレームデータを表示します。【詳細はP10を参照】

※注意と補足※

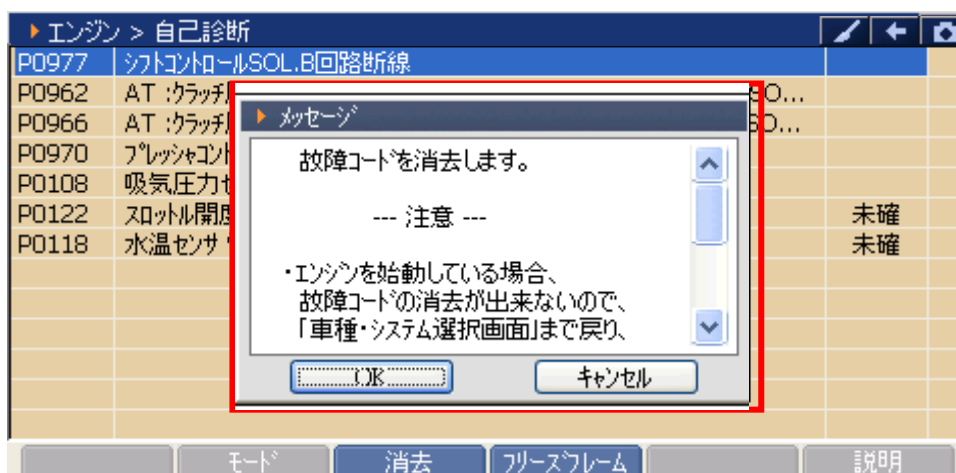
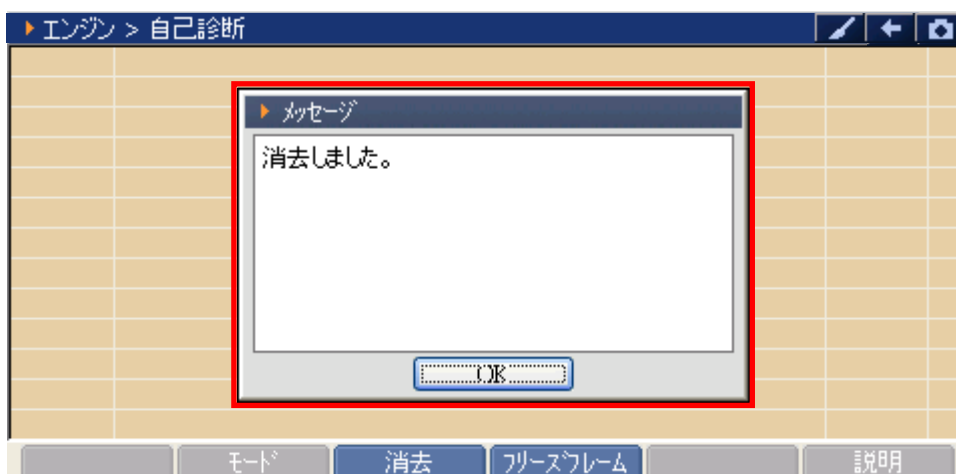
- 自己診断画面の表示形式は診断するシステムによって異なります。
- エアバッグECUが展開済みの場合は以下の画面が表示されます。

  その場合には、作動履歴の故障コードが優先されて、断線等の故障コードが検出されない場合や全く故障コードが表示されない場合があります。エアバッグECUを交換した後に再度自己診断を行ってください。

<エアバッグ展開済み時の表示画面>

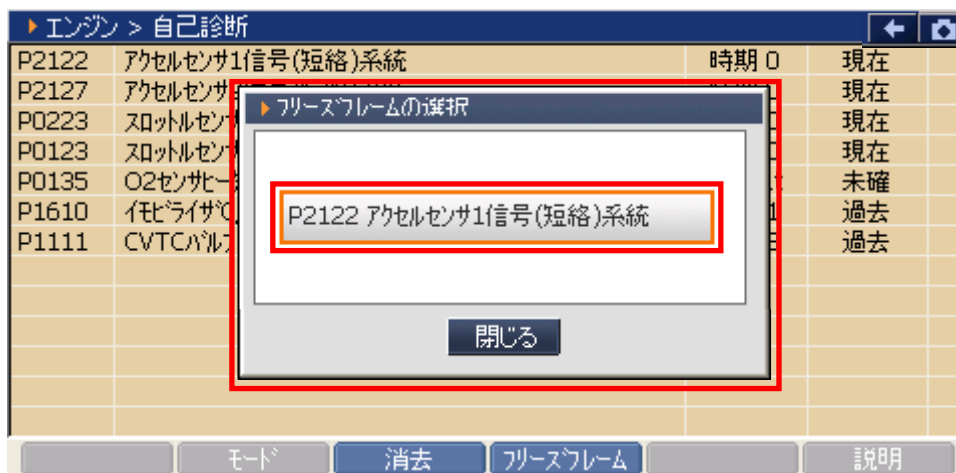
3) 消去 ボタンをタッチ、又は F3 ボタンを押すと故障コードを消去します。

以下の画面が表示されますので、 OK ボタンをタッチして故障コードを消去してください。

※注意と補足※

- エンジンを始動している場合、故障コードの消去が出来ませんので、「車種・システム選択画面」まで戻り、IG SWを一度OFFに、再びONにしてからシステムの選択をしてください。(エンジンは始動させないでください。)
- ABS/VSCの故障コードを消去すると、VSA中立点学習が必要になる場合があります。

〈図:故障コードの消去〉

〈図:故障コードの消去完了〉

■ ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑ ボタンの詳細

① ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑ ボタンをタッチ、又は F4 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。フリーズフレームデータを表示する故障コードを選択してください。

〈図：表示するフリーズフレームデータの選択〉

② 故障コードを選択すると、フリーズフレームデータが表示されます。
戻る ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押すと自己診断画面に戻ります。

〈図：フリーズフレームデータの表示〉

※注意と補足※

- フリーズフレームデータとは故障コード発生・検出時のデータがECU（エンジンコンピュータ）によって記録されたものです。記憶されるデータの種類は車載ECUによって決められており、故障コードの種類には関係なく決まった種類のデータが記憶されます。
- フリーズフレームデータは故障コード消去後、最初の故障コード発生と同時に1回だけ記憶されます。
- フリーズフレームデータは故障コードを消去する時に同時に消去されます。

警告

- 作業サポートはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

対応している作業サポート項目の一覧は以下の通りです。

<<エンジン･ガソリン>>

作業サポート項目名	内容
A/Cクラッチテスト	A/Cクラッチのテストを実施します。
ECUリセット	故障コードとECUの学習値を消去します。
EGRテスト	EGRのテストを実施します。
ETCS(TAC)テスト	ETCS(TAC)のテストを実施します。
VTCテスト	VTCテストを実施します。
VTEC LOW V判定	一部のV6エンジンで各気筒の固着履歴を判定します。
インジェクタ気筒別停止	任意の気筒のインジェクタを停止させます。
インジェクタ全気筒停止	全気筒のインジェクタを停止させます。
クランクパターンクリア	クランクパターンクリアを実施します。
クランクパターン学習	クランクパターンの学習を実施します。

<<エンジン･ガソリン　続き>>

作業サポート項目名	内容
クルーズコントロール キャンセル履歴	クルーズコントロールのキャンセルの履歴を表示します。
スロットルバルブ補正値クリア	スロットルバルブの補正値を駆動させます。
燃料ポンプ強制駆動	燃料ポンプを強制的に駆動させます。
燃料ポンプ強制停止	燃料ポンプを強制的に停止させます。

<<AT>>

作業サポート項目名	内容
CPC(リニア) ソレノイドバルブAテスト	CPC(リニア)ソレノイドバルブAのテストを実施します。
CPC(リニア) ソレノイドバルブBテスト	CPC(リニア)ソレノイドバルブBのテストを実施します。
CPC(リニア) ソレノイドバルブCテスト	CPC(リニア)ソレノイドバルブCのテストを実施します。
CPC(リニア) ソレノイドバルブDテスト	CPC(リニア)ソレノイドバルブDのテストを実施します。
ECUリセット	故障コードとECUの学習値を消去します。
クラッチ圧力制御SOL.V.テスト	クラッチ圧力制御ソレノイドバルブのテストをします。
シフトソレノイドA	シフトソレノイドAのテストを実施します。
シフトソレノイドB	シフトソレノイドBのテストを実施します。
シフトソレノイドC	シフトソレノイドCのテストを実施します。
シフトソレノイドD	シフトソレノイドDのテストを実施します。
シフトソレノイドE	シフトソレノイドEのテストを実施します。
シフトロックソレノイドテスト	シフトソレノイドのテストを実施します。
ロックアップソレノイドテスト	ロックアップソレノイドのテストを実施します。
圧力テスト(アシスタンスモード)	アシスタントモードで圧力テストを実施します。

<<CVT>>

作業サポート項目名	内容
ECUリセット	故障コードとECUの学習値を消去します。
インヒビタソレノイドテスト	インヒビタソレノイドのテストを実施します。
シフトソレノイドバルブA	シフトソレノイドバルブAのテストを実施します。
シフトソレノイドバルブB	シフトソレノイドバルブBのテストを実施します。
シフトソレノイドバルブOP	シフトソレノイドバルブの誤作動の有無を確認します。
スタートクラッチステータス F/B学習	スタートクラッチのF/B学習を実施します。
スタートクラッチステータス データクリア	スタートクラッチのデータをクリアします。

<<ABS・VSA>>

作業サポート項目名	内容
LF CASレギュレータ バルブテスト	左フロントのCASレギュレータバルブのテストを実施します。
LF VSAテスト	左フロントのVSAのテストを実施します。
LF ソレノイドテスト	左フロントのソレノイドのテストを実施します。
LR CASレギュレータ バルブテスト	左リヤのCASレギュレータバルブのテスト実施します。
LR VSAテスト	左リヤのVSAのテストを実施します。
LR ソレノイドテスト	左リヤのソレノイドのテストを実施します。
RF CASレギュレータ バルブテスト	右フロントのCASレギュレータバルブのテストを実施します。
RF VSAテスト	右フロントのVSAのテストを実施します。

<<ABS･VSA　続き>>

作業サポート項目名	内容
RF ソレノイドテスト	右フロントのソレノイドのテストを実施します。
RR CASレギュレータ バルブテスト	右リヤのCASレギュレータバルブのテストを実施します。
RR VSAテスト	右リヤのVSAのテストを実施します。
RR ソレノイドテスト	右リヤのソレノイドのテストを実施します。
VSA中立点学習	VSAの中立点の学習を実施します。
全センサ	VSAユニットやVSAに関するセンサを 交換した時に実施します。

<<SRSエアバッグ>>

作業サポート項目名	内容
OPDS初期化	OPDS初期化を実施します。
SWS初期化	SWS初期化を実施します。
シート出力チェック	SWSの計算値を確認します。

<<イモビライザ>>

作業サポート項目名	内容
キーのタイプ	キーの種類を表示します。
キーの数	キーの数を表示します。
キーレスチェック	キーレスの確認をします。
キー登録	キー登録を実施します。
システムチェック	キーの登録状況と通信線の状態を確認します。
全キー消去	全キーの消去を実施します。

<<EPS>>

作業サポート項目名	内容
トルクセンサ学習	トルクセンサの学習を実施します。

<<ACM>>

作業サポート項目名	内容
ACMリセット	ACMリセットを実施します。

<<SH-AWD>>

作業サポート項目名	内容
SH-AWD初期化	SH-AWDの初期化を実施します。
クラッチコイルテスト	クラッチコイルのテストを実施します。
シフトソレノイドテスト	シフトソレノイドのテストを実施します。
ステアリングアングル センサ校正	ステアリングアングルセンサの校正を実施します。
加速装置テスト	加速装置のテストを実施します。
差動トルク校正	差動トルクの校正を実施します。
全センサ校正	SH-AWDに関するセンサの校正を実施します。

<<VTM 4>>

作業サポート項目名	内容
初期化	新しいVTM4コントロールユニットを組み込む場合、 実施します。

<<ボディ>>

作業サポート項目名	内容
LR席側 パワーウインドウリセット	LR側のパワーウインドウの初期化を実施します。
RR席側 パワーウインドウリセット	RR側のパワーウインドウの初期化を実施します。
オートA/Cセルフテスト	オートA/Cのセルフテストを実施します。
セルフテスト	メータのセルフテストを実施します。
運転席側 パワーウインドウリセット	運転席側のパワーウインドウの初期化を実施します。
助手席側 パワーウインドウリセット	助手席側のパワーウインドウの初期化を実施します。
履歴データ	セキュリティの履歴データを表示します。
履歴データクリア	セキュリティの履歴データを消去します。
サービスリマインダー （USA,カナダ仕様車のみ）	サービスリマインダー機能を確認します。
エンジンオイルとATFリセット	エンジンオイルとATFの設定値をリセットします。
エンジンオイルリセット	エンジンオイルリセットの設定値をリセットします。
ATFリセット	ATFの設定値をリセットします。
トランスミッション交換後の 初期化	トランスミッションを交換した後に実施します。
メインテナンスサブアイテム	メインテナンス機能のサブアイテムを確認します。
メインテナンスサブアイテム1 リセット	メインテナンスサブアイテム1のリセットを実施します。

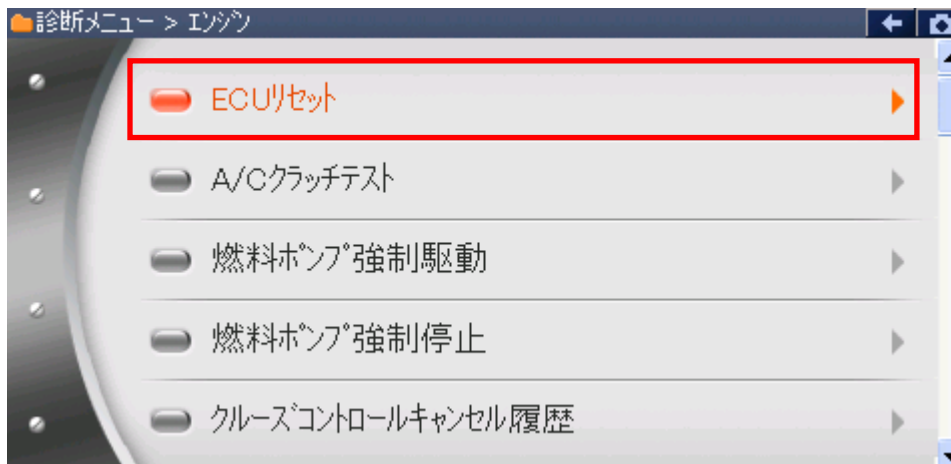
<<ボディ　続き>>

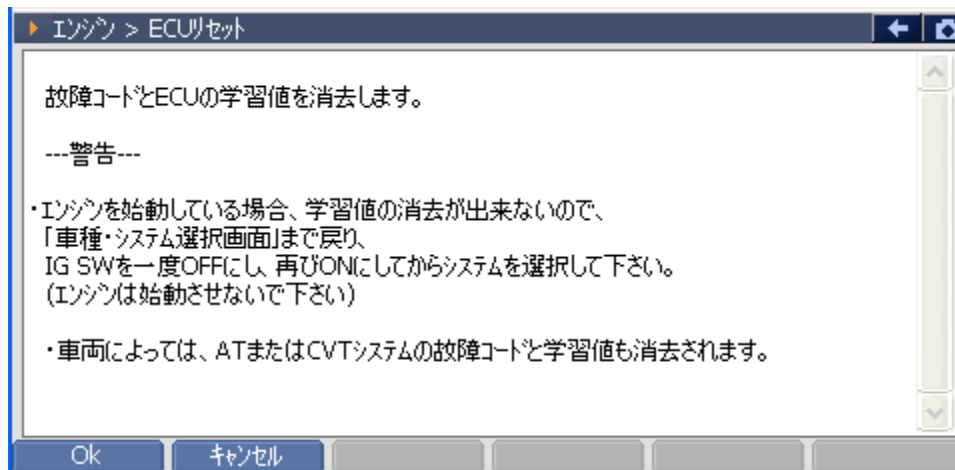
作業サポート項目名	内容
メインテナンスサブアイテム2 リセット	メインテナンスサブアイテム2のリセットを実施します。
メインテナンスサブアイテム3 リセット	メインテナンスサブアイテム3のリセットを実施します。
メインテナンスサブアイテム4 リセット	メインテナンスサブアイテム4のリセットを実施します。
メインテナンスサブアイテム5 リセット	メインテナンスサブアイテム5のリセットを実施します。
メインテナンスサブアイテム6 リセット	メインテナンスサブアイテム6のリセットを実施します。
履歴	サービスリマインダーに関する履歴を表示します。
PAX警告リセット (USA,カナダ仕様車のみ)	PAX警告灯を消灯させる時に実施します。

ENTER

1）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して　　　　ボタンを押してください。

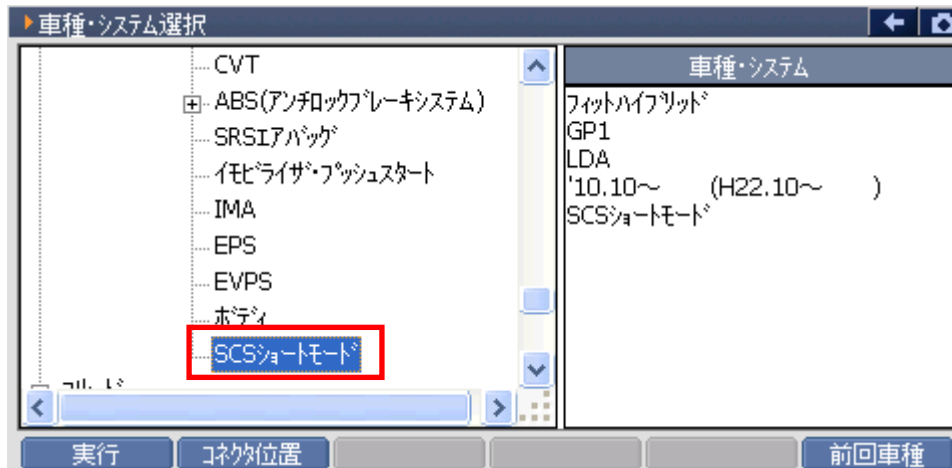
〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

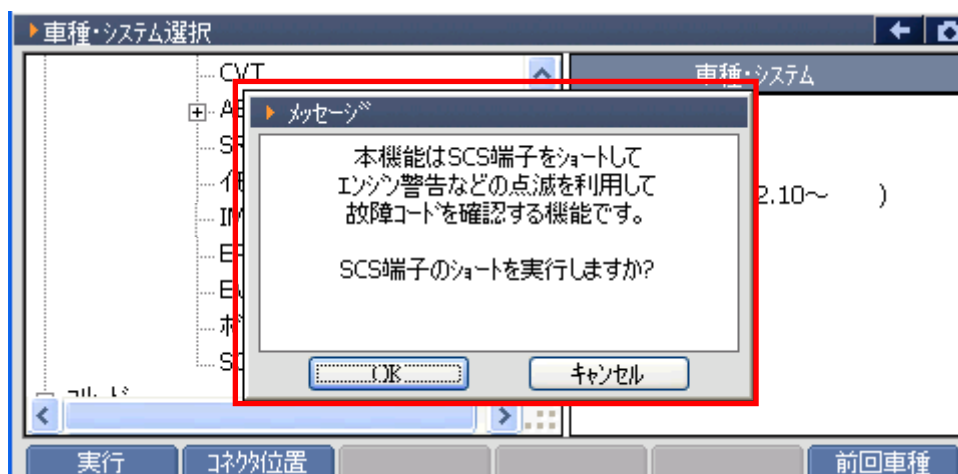
2）作業サポート項目選択画面が表示されます。ここでは例として『ECUリセット』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：作業サポート項目選択画面〉

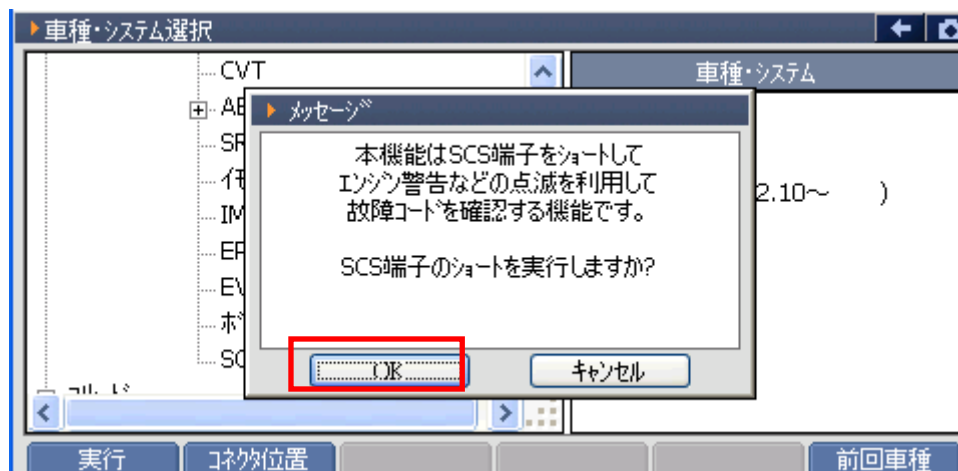
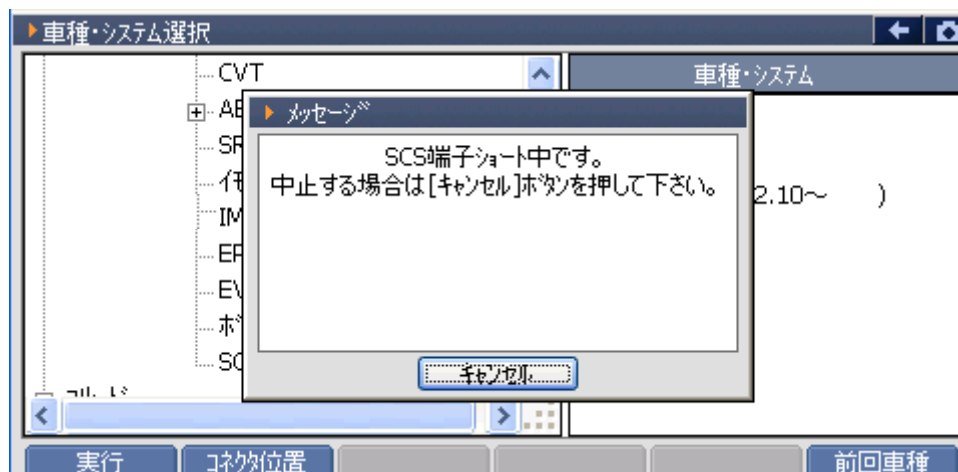
3）作業サポート実行画面が表示されます。画面の指示に従って作業サポートを実行してください。

〈図：ECUリセット実行画面〉

※注意と補足※

- ECU学習値とは、車両の制御に必要な適正アイドリング回転数などの補正値のことです。
- ECUリセットを行った後、アイドリングの学習を行う必要があります。詳細に関してはホンダのサービスマニュアルをご参照ください。
- 車種によっては、エンジン、AT、CVTのいずれかのシステムでECUリセットを実行した場合、エンジンとAT、あるいはエンジンとCVT両方のシステムでECUのリセットが行われる場合がありますので、ご注意ください。

1）車種・システム選択画面において『SCSショートモード』を選択して、実行ボタンをタッチ、又はFIボタンを押してください。

〈図：SCSショートモードを選択〉

2）以下の画面が表示されます。

〈図：SCSショートモード実行確認画面〉

3） OK ボタンをタッチしてSCSショートモードを実行します。

〈図：SCSショートモード実行確認画面〉

〈図：SCSショートモード実行中画面〉

※注意と補足※

- 16ピンの診断コネクタ（データリンクカプラ）の9番ピンにはSCS（サービスチェックシグナル）ラインがつながっています。このSCSラインと4番ピン（グランドアース）を短絡させることをSCSショートといいます。警告灯で故障コードを読み出す場合や、点火時期の確認（調整）を行う場合に使用します。詳細はホンダのサービスマニュアルをご参照ください。
- SCSショートモードは16ピンの診断コネクタ（データリンクカプラ）装備車のみ対応です。

株式会社 インターサポート

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町329-5

Tel 029-248-0616　Fax 029-248-1609

http://www.inter-support.co.jp

製品保守センター

（修理のお問合せはこちら）

Tel 029-304-0185

サポートセンター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 0570-064-737 （ナビダイヤル※）

Fax 029-304-0167

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2014年2月発行　第15版

　G1PZFDN001-6-15